

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編

10

体験・レクリエーション施設

10 体験・レクリエーション施設

その1 施設の概要

与謝野町では旧町時代から、まちの特色を体験し楽しむ施設が多く整備されてきました。それは観光施設であつたり商工産業施設であつたり様々で、合計 14 施設になります。岩滝地域は 2 施設、野田川地域は 3 施設、加悦地域は 7 施設あります。運営形態については、直営施設が 5 施設、指定管理施設が 8 施設、業務委託施設が 1 施設です。施設概要ではそれらをカテゴリーに分けて説明します。

カテゴリー 1 自然を体験する施設

まずは与謝野町の自然を体験することが出来る施設です。キャンプ場や眺望を活かした施設など、与謝野町の自然に触れ合うことのできる施設です。

【自然を体験する施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設年	運営形態
		敷地	延床		
かや山の家	温江1401番地	2,708.0㎡	487.4㎡	S 53	指定管理
大内峠一字観公園	弓木3211番地	3,500.0㎡	445.0㎡	H 13	指定管理
野田川ユースセンター	三河内48番地1	9,864.0㎡	685.3㎡	H3	指定管理
加悦双峰公園	与謝292番地2	277,030.0㎡	1,220.0㎡	S57	直営
三河内山の家	三河内2348番地	290.0㎡	105.4㎡	S61	直営
池ヶ成キャンプ場	温江地内	405,646.0㎡	85.0㎡	S 53	直営
平林キャンプ場	滝地内	24,272.0㎡	238.0㎡	H 4	直営

合計 723,310.0㎡ 3,266.1㎡

※平林キャンプ場の延床面積は炊飯棟、トイレなど



■ かや山の家

豊かな大江山の自然環境を活かした交流活動の拠点施設として、昭和 53 年に設置されました。現在、かや山の家運営委員会が指定管理者として施設運営をしています。主に宿泊や青少年の合宿、各種宴会などに利用されています。



■ 大内峠一字観公園

山の自然や眺望など自然資源を活用した観光レクリエーションの拠点として位置づけ、利用者の健康と福祉の増進のため、平成 13 年に設置されました。現在、大内峠一字観公園有限事業責任組合が指定管理者として施設運営をしています。天橋立を横一文字に眺められ、パノラマコテージは繁忙期に予約が取れないほど人気です。

(施設の利用期間 4/1～11/30)



■ 野田川ユースセンター

自然の景観を生かし、青少年の心身の健全な発達に寄与するために、平成 3 年に京都府が設置し無償貸付されています。現在、合同会社コミュニティ野田川が指定管理者として施設運営をしています。野田川森林公園の緑に囲まれたモダンな宿泊・研修施設。合唱や演奏会、パーティーなどに利用されています。



■ 加悦双峰公園

大江山の自然を生かし、町民に憩いの場を提供し、心身の健全な発達に寄与するため、昭和 57 年に設置された直営施設です。バンガロー、センターハウス、憩いの家、研修棟、テントサイト、オートキャンプ場、シャワー室は稼動していますが、施設の老朽化に伴い閉鎖設備が増えてきています。冬季（12/1～3/31）は閉鎖しています。



■ 三河内山の家

町民の交流を深め、うるおいのある豊かな住みよいまちづくり及び青少年の健全育成に資するため、昭和 61 年に設置された直営施設です。主にボーイスカウト活動に利用されています。(平成 24・25 年度はボーイスカウトのみ利用)



■ 池ヶ成キャンプ場

大江山の自然に親しむ観光レクリエーション活動の場として位置づけ、利用者の健康と福祉の増進を図るために昭和 53 年に設置されました直営施設です。施設利用料は 0 円、利用にあたっては、かや山の家に備え付けてある受付簿に記入します。



■ 平林キャンプ場

大江山の自然に親しむ観光レクリエーション活動の場として位置づけ、利用者の健康と福祉の増進を図るために平成4年に設置された直営施設です。取付道が、毎年豪雨などで被害を受けるため通行が困難となり、平成22年度末をもって閉鎖されています。



カテゴリ-2 食と健康を体験する施設

食と健康を体験する施設として、与謝野町で採れる食材を味わうことができる、「リフレかやの里」と、温泉で健康回復できる施設「クアハウス岩滝」があります。いずれも指定管理施設となっています。

【食と健康を体験する施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
リフレかやの里	金屋1730番地	20,878.0㎡	1,384.5㎡	H10	指定管理
クアハウス岩滝	岩滝470番地	10,002.8㎡	2,711.4㎡	H4	指定管理
合計		30,880.8㎡	4,095.9㎡		

【施設位置図】



■リフレかやの里

地元農産物を活用して、中長期的に滞在しながら健康を回復する施設として、また都市住民との交流の促進や町の農業振興を図ることを目的として設置されました。現在は、社会福祉法人よさのうみ福祉会が指定管理者として管理・運営を行なっています。地元地域と連携して様々な取り組みを行っており、コミュニティーの要としての機能も発揮しています。



■クアハウス岩滝

天の橋立岩滝温泉を利用して町民の健康増進と回復及び町の活性化を図るために、平成4年に設置。現在、ドルフィン株式会社が指定管理者として施設運営をしています。裸浴はもちろん、水着を着てみんなで入れるバーデゾーン、ウォーターライダーがある広いプール、トレーニングルームやスタジオ、お食事処があり、町民の憩いの場として利用されています。建築から20年以上経過し、施設の老朽化も目立ってきています。



カテゴリー3 産業・ものづくりを体験する施設

産業・ものづくりを体験する施設として、地域の特産品のPRや販売を行う施設、加悦生産販売施設（道の駅シルクのまちかや）や、地場産業である織物業の伝承と体験ができる施設など5つの施設があります。

【産業・ものづくりを体験する施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設年	運営形態
		敷地	延床		
道の駅	滝98番地	1,391.0㎡	411.0㎡	H5	指定管理
道の駅屋外トイレ	滝881番地	-	15.0㎡	H6	指定管理
ちんざん	滝1991番地	1,586.8㎡	179.8㎡	H9	指定管理
織物技能訓練センター	四辻515番地1	2,247.0㎡	532.9㎡	S36	委託
染色センター	算所421番地1	1,624.6㎡	829.3㎡	S57	直営
木工加工施設	滝728番地1	5,814.0㎡	121.0㎡	S60	指定管理
合計		12,663.4㎡	2,089.0㎡		

※道の駅屋外トイレの敷地面積はトイレの設置されている駐車場のおおよその面積になります。

【施設位置図】



■ 道の駅（加悦生産物販売施設）

与謝野町等で生産される生産物等の販売と通じて消費者との交流を図るとともに、生産者の所得向上と地域振興に資するため、平成 4 年に設置されました。平成 6 年から道の駅とし併用開始し、現在、タンゴフロンティア株式会社が指定管理者として施設運営をしています。シルク製品や工芸品、地酒など地元の製品を取り扱っています。交通事情の変化等から年々利用者が減少している状況です。※本白書では道の駅と表記します。



■ ちんざん（生産物特産加工施設）

当施設は農水産物食品加工等の技術研修を行うとともに、地域資源を活用した加工食品等の提供及び販売を通して消費者との交流を図り、生産者の所得向上と地域振興を目的として設置されました。現在は「有限会社 明人夢村」が指定管理者として管理・運営を行っています。

※本白書ではちんざんと表記します。



■ 織物技能訓練センター

織物業の振興を図るため、製織及び織機調整技能の訓練及び染色技術習得の施設として、昭和 36 年に設置されました。現在、与謝野町商工会に委託し運営管理を行っています。織物技術等に関する相談や商品開発を実施するとともに、近年では後継者の人材育成の研修会も実施しています。



■ 染色センター

染色に関する専門技術的な研究及び受託製作、染色体験も実施している施設です。染色技術の指導や織物業の振興を図るため、昭和 57 年に設置された直営施設です。敷地内には、染色センター棟・全齡人工飼料試験室・技能訓練棟があり、現在は染色センター棟及び全齡人工飼料試験室を使用。染色体験は体験観光として利用され、浴衣や風呂敷製作講座などを実施しています。



■ 木工加工施設

山村地域の資源を有効に利用し、新しい特産物の開発及び施策を行い若者定住対策に資することを目的として設置されました。現在、特定非営利活動法人あまのはしだて座が指定管理者として管理・運営を行なっています。



その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

施設はそれぞれ昭和 53 年～平成 13 年の間に整備されたもので、中には耐用年数を超過しているものもあります。

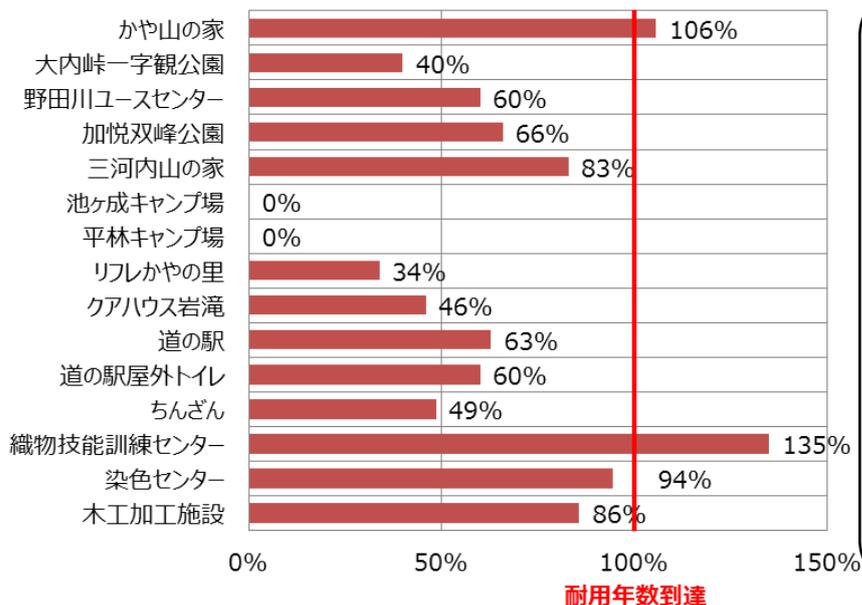
【体験・レクリエーション施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
かや山の家	木造 1 階建	S 53	H 25	106%	不明
大内峠一字観公園	木造 1 階建	H 13	H 48	40%	有
野田川ユースセンター	鉄骨造 1 階建	H 3	H 43	60%	有
加悦双峰公園	鉄筋コンクリート造 1 階建	S57	H44	66%	有
三河内山の家	木造 1 階建	S 61	H 33	83%	有
池ヶ成キャンプ場	-	S53	-	-	-
平林キャンプ場	-	H 4	-	-	-
リフレかやの里	鉄筋コンクリート造 地上 1 階地下 1 階建	H 10	H 60	34%	有
クアハウス岩滝	鉄筋コンクリート造 3 階建	H4	H 54	46%	有
道の駅	木造 1 階建	H5	H40	63%	有
道の駅屋外トイレ	木造 1 階建	H6	H41	60%	有
ちんざん	木造 1 階建	H 10	H45	49%	有
織物技能訓練センター	鉄骨造 1 階建	S36	H13	135%	不明
染色センター	木造 2 階建	S57	H29	94%	不明
木工加工施設	木造 2 階建	S60	H32	86%	有

※耐用年数は木造35年、鉄骨造40年、鉄筋コンクリート造50年を想定しています。

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えるものは耐用年数超過です。

※複数の施設から成り立っている場合は主要な施設の構造を採用しています。



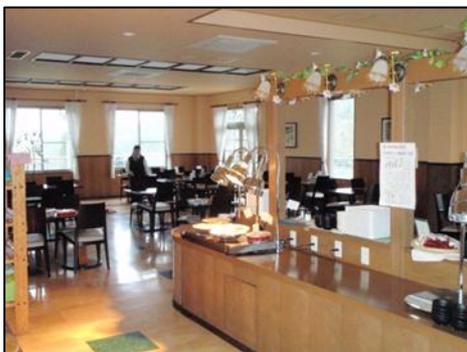
かや山の家と織物技能訓練センターが耐用年数を超過しています。次いで染色センターが老朽化率94%（ただし、平成25年度に大規模改修実施）となっています。キャンプ場は耐用年数等計上していません。

② 設備

各施設、それぞれの用途に合わせた設備状況となっています。施設によって構成は様々ですので統一的な比較はせず、施設設備を列挙しています。

施設名	設備状況・施設の構成	備考
かや山の家	宿泊室、宴会場、研修室、厨房、食堂、風呂	
大内峠一字観公園	管理棟、コテージ、テントサイト、炊事棟、シャワー棟、トイレ棟、展望デッキ	
野田川ユースセンター	宿泊施設・音楽ホール	
加悦双峰公園	バンガロー、センターハウス、憩いの家、研修棟、焼肉ハウス、テントサイト、オートキャンプ場、シャワー室 (休止) モノレーター、展望浴場、ローラースケート場、スーパースライダー	
三河内山の家	集会室兼宿泊室	
池ヶ成キャンプ場	キャンプ施設	
平林キャンプ場	給水施設・炊事施設・便所・シャワー施設・林間広場(テントサイト含む)・取り付け道路	
リフレかやの里	本館 (レストラン、浴場、ホテル)	
クアハウス岩滝	本棟、プール棟、駐車場トイレ、温泉スタンド、ポンプ室	
道の駅	生産物販売施設本館	
ちんざん	共同学習室、調理室、農産加工室、事務室	
織物技能訓練センター	織物技能訓練センター：事務所、教室、実習室（力織機）、展示室（ギャラリー）、手機室 染色棟：作業室	
染色センター	染色センター棟：事務所、榨場（染色体験室）、実験室（洗い場）、加工室 技能訓練棟：事務所、倉庫、機場 全齢人工飼料試験室：各飼育部屋	
木工加工施設	木工加工場、休憩室	

※トイレや倉庫等は、施設の構成にはいれていません。



リフレかやの里レストラン



大内峠一字観公園コテージ

③ 防災に関する状況

全 14 施設の内の半数にあたる 7 施設が、指定警戒区域内に位置しています。

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
かや山の家	○	-	-	警戒区域	-
大内峠一字観公園	-	-	-	-	-
野田川ユースセンター	○	○	-	-	-
加悦双峰公園	-	-	-	-	-
三河内山の家	-	-	-	-	-
池ヶ成キャンプ場	-	-	-	-	-
平林キャンプ場	-	-	-	-	特別警戒区域
リフレかやの里	福祉避難所	福祉避難所	-	警戒区域	-
クアハウス岩滝	-	-	-	特別警戒区域	警戒区域
道の駅	-	-	-	-	-
ちんざん	-	-	-	-	特別警戒区域
織物技能訓練センター	-	-	0.5～3m未満	-	-
染色センター	-	-	0.5m未満	-	-
木工加工施設	-	-	-	-	-

その 3 施設の利用状況

それぞれの施設ごとに利用用途が異なります。まずは、利用者の視点で利用用途を分けてみます。

【体験・レクリエーション施設利用用途仕訳表】

施設名	利用用途（体験できること）					備考
	泊まる	食べる	遊ぶ	買う	学ぶ	
かや山の家	○	○	-	-	-	
大内峠一字観公園	○	-	○	-	-	
野田川ユースセンター	○	○	-	-	-	
加悦双峰公園	○	-	○	-	-	
三河内山の家	○	-	-	-	-	
池ヶ成キャンプ場	○	-	○	-	-	
平林キャンプ場	○	-	○	-	-	H22末で閉鎖
リフレかやの里	○	○	-	○	-	
クアハウス岩滝	-	○	○	○	-	
道の駅	-	○	-	○	-	
ちんざん	-	○	-	○	-	
織物技能訓練センター	-	-	-	-	○	
染色センター	-	-	-	○	○	
木工加工施設	-	-	-	-	○	

泊まるは「宿泊」できる施設です。食べるは「食事」ができる施設です。遊ぶは「遊具など」が設置してある施設です。買うは「買物」ができる施設です。学ぶは「専門的な技術を習得すること」ができる施設です。

単一的な利用用途だけでなく、複合的に体験ができる施設多いです。特にリフレかやの里はご覧の用途に加え入浴もできるなど、様々な目的にご活用いただける施設です。

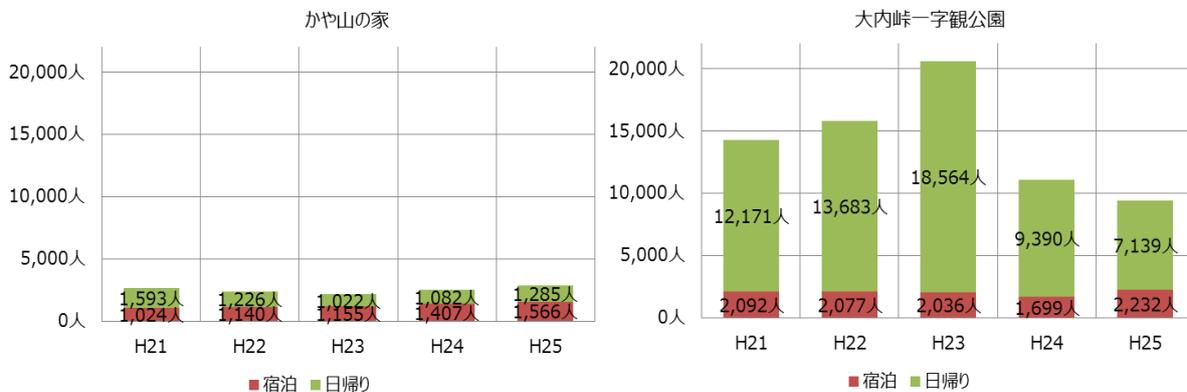
■利用件数

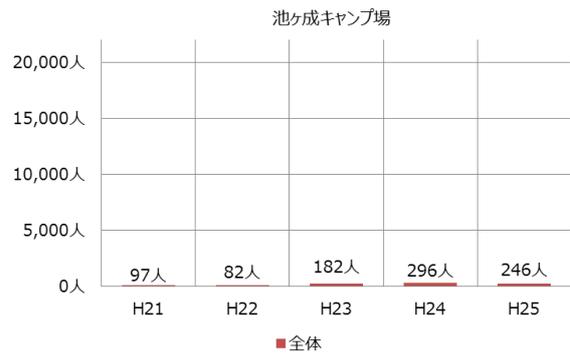
施設ごとの利用件数を見てみると以下のとおりとなります。まずは、自然を体験する施設です。

【自然を体験する施設の利用推移表】

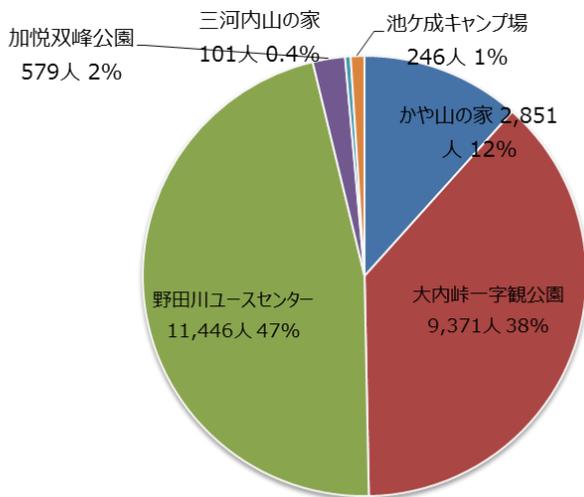
施設名	運営形態	利用人数					
		内訳	H21	H22	H23	H24	H25
かや山の家	指定管理	全体	2,617人	2,366人	2,177人	2,489人	2,851人
		宿泊	1,024人	1,140人	1,155人	1,407人	1,566人
		日帰り	1,593人	1,226人	1,022人	1,082人	1,285人
大内峠一字観公園	指定管理	全体	14,263人	15,760人	20,600人	11,089人	9,371人
		宿泊	2,092人	2,077人	2,036人	1,699人	2,232人
		日帰り	12,171人	13,683人	18,564人	9,390人	7,139人
野田川ユースセンター	指定管理	全体	10,576人	11,454人	11,068人	11,389人	11,446人
		宿泊	2,301人	2,286人	2,192人	1,977人	1,986人
		日帰り	8,275人	9,168人	8,876人	9,412人	9,460人
加悦双峰公園	直営	全体	1,221人	869人	966人	845人	579人
		宿泊	648人	645人	395人	299人	328人
		日帰り	573人	224人	571人	546人	251人
三河内山の家	直営	全体	73人	382人	266人	148人	101人
		※利用件数のみ把握					
池ヶ成キャンプ場	直営	全体	97人	82人	182人	296人	246人
		※利用件数のみ把握					
平林キャンプ場	直営	※閉鎖中のため計上しない					

【各施設の利用件数推移グラフ（20,000人を上限に比較）】

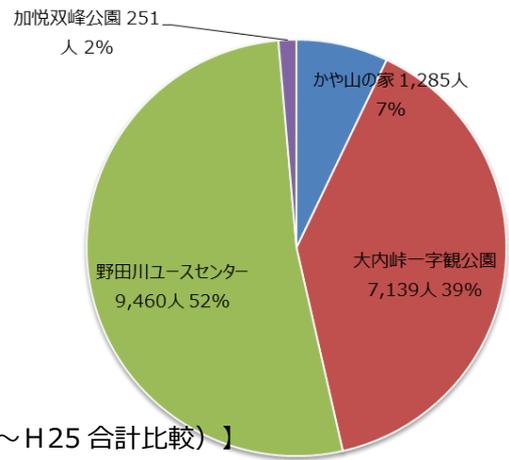




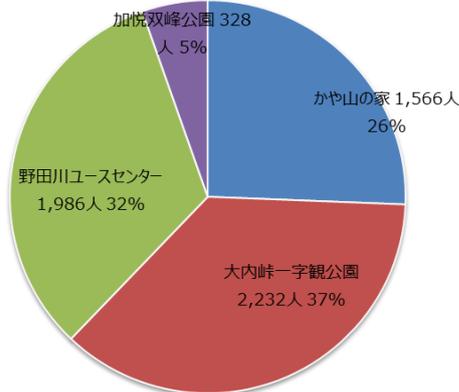
【各施設の利用件数割合（H25 合計比較）】



【各施設の利用件数割合・日帰り利用（H25 合計比較）】



【各施設の利用件数割合・宿泊利用（H21～H25 合計比較）】

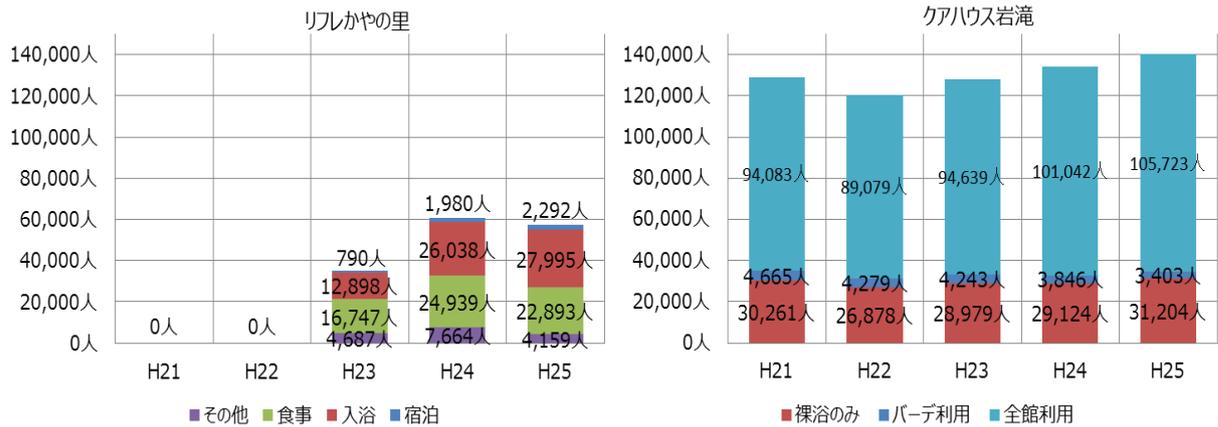


次に食と健康を体験する施設です。以下の表のとおりです。

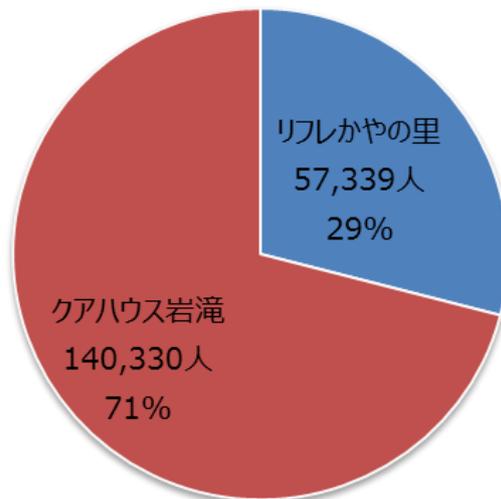
【食と健康を体験する施設の利用推移表】

施設名	運営形態	利用件数（人）					
		内訳	H21	H22	H23	H24	H25
リフレかやの里	指定管理	全体	-	-	35,122人	60,621人	57,339人
		宿泊	-	-	790人	1,980人	2,292人
		入浴	-	-	12,898人	26,038人	27,995人
		食事	-	-	16,747人	24,939人	22,893人
		その他	-	-	4,687人	7,664人	4,159人
クアハウス岩滝	指定管理	全体	129,009人	120,236人	127,861人	134,012人	140,330人
		全館利用	94,083人	89,079人	94,639人	101,042人	105,723人
		バーデ利用	4,665人	4,279人	4,243人	3,846人	3,403人
		裸浴のみ	30,261人	26,878人	28,979人	29,124人	31,204人

【各施設の利用件数推移グラフ（140,000 人を上限に比較）】



【各施設の利用件数割合（H25 合計比較）】



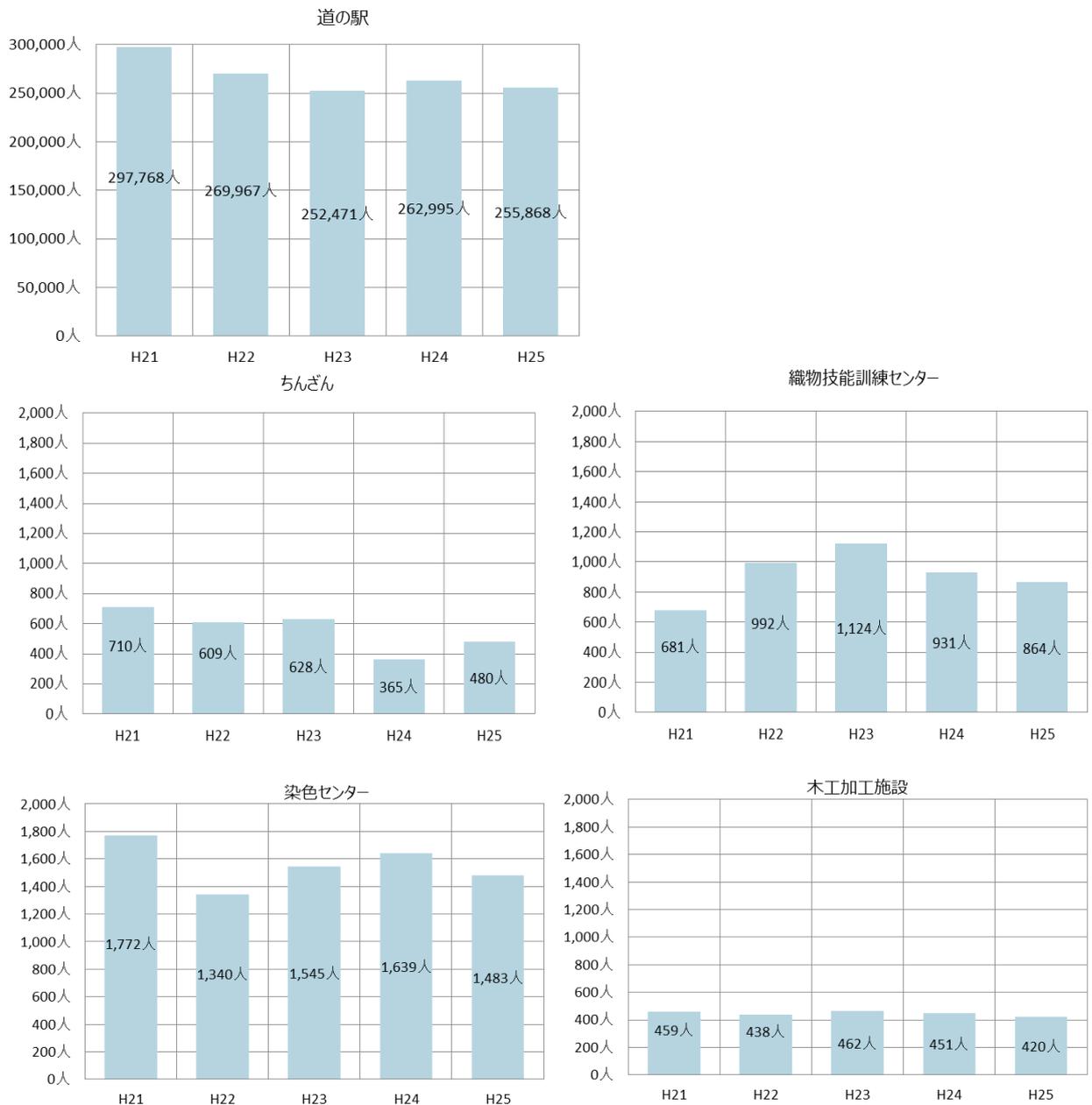
最後に産業・ものづくりを体験する施設です。以下の表のとおりです

【産業・ものづくりを体験する施設の利用推移表】

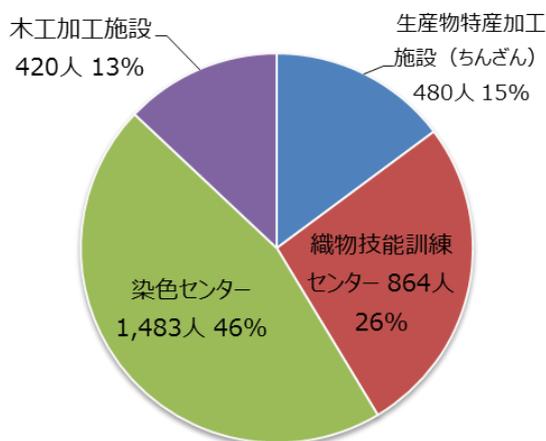
施設名	運営形態	利用件数（人）				
		H21	H22	H23	H24	H25
道の駅	指定管理	297,768人	269,867人	252,471人	262,995人	255,861人
ちんざん	指定管理	710人	609人	628人	365人	480人
織物技能訓練センター	委託	681人	992人	1,124人	931人	864人
染色センター	直営	1,772人	1,340人	1,545人	1,639人	1,483人
木工施設	指定管理	459人	438人	462人	451人	420人

※道の駅の利用人数はレジ通過者等、指定管理者の報告によるものです。

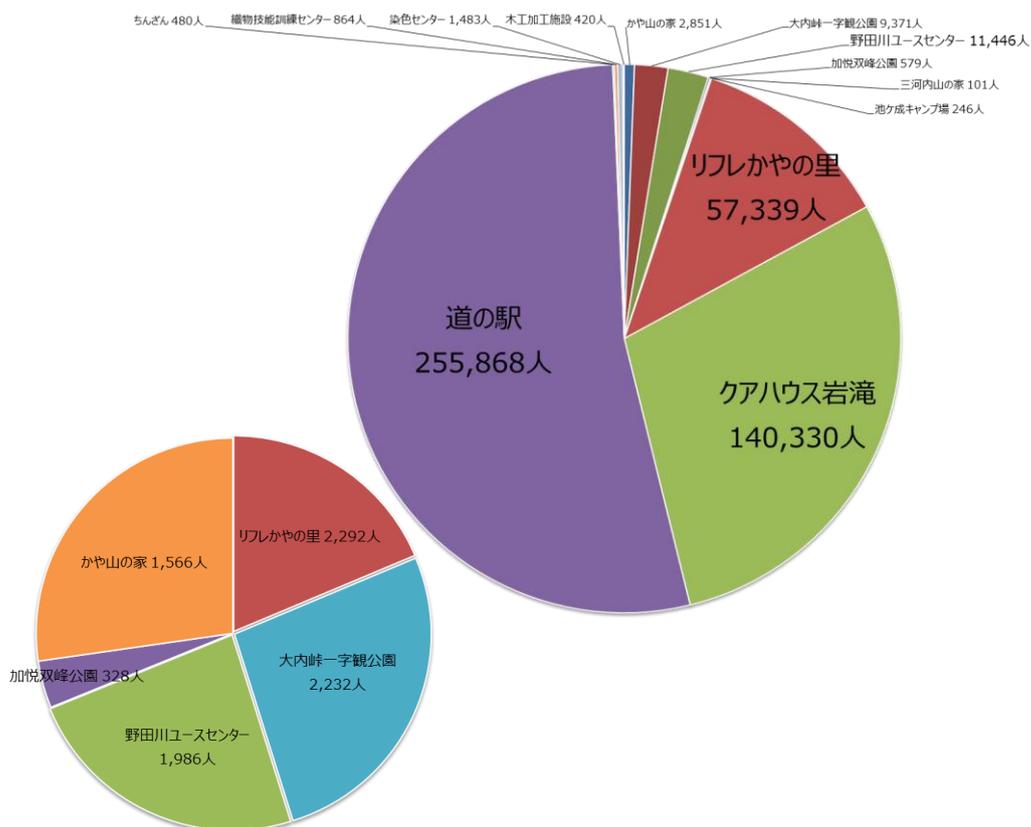
【各施設の利用件数推移グラフ】 ※道の駅以外は2,000人を上限に比較



【各施設の利用件数割合（H25 合計比較：道の駅除く）】



【全施設の利用件数割合（H25 合計比較）】



【参考：宿泊利用件数割合（H25 合計比較）】

体験・レクリエーション施設は利用用途が違うので単純比較するのは妥当ではありませんが、全体の利用人数で見ると、道の駅、クアハウス、リフレかやの里の利用が他施設と比べて圧倒的に多くなっています。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

体験・レクリエーション施設については、指定管理施設が7施設あり、指定管理者は指定管理料により、管理運営を行い、町は施設の修繕などを行っています。平林キャンプ場は平成22年度をもって閉鎖していますが、賃借料が毎年230千円かかっています。

【体験・レクリエーション施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	かや山の家	大内峠一字観公園	野田川ユースセンター	加悦双峰公園
賃金	0	0	0	2,641
光熱水費・燃料費	0	0	0	659
通信料・手数料	0	37	100	372
使用料・賃借料	0	449	0	24
消耗品費	290	42	0	208
備品購入費	0	512	498	0
賄・医薬材料費	0	0	0	11
修繕・維持補修費	5	725	1,738	200
委託料	0	120	599	293
指定管理料	4,100	3,379	4,005	0
その他	85	1,021	111	73
合計	4,480	6,285	7,051	4,481
項目	三河内山の家	池ヶ成キャンプ場	平林キャンプ場	リフレかやの里
賃金	0	132	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	0	0
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	20	231	0
消耗品費	0	1	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	28	0	0
委託料	0	167	0	0
指定管理料	0	0	0	11,407
その他	21	53	0	202
合計	21	401	231	11,609

(単位：千円)

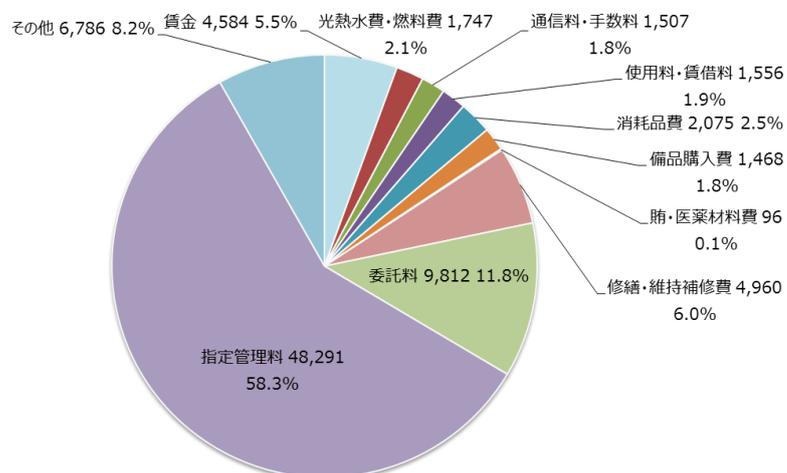
項目	クアハウス岩滝	道の駅	ちんざん	織物技能訓練センター
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	0	333
通信料・手数料	0	25	0	33
使用料・賃借料	677	125	0	7
消耗品費	136	111	0	1
備品購入費	282	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	293	0	0	300
委託料	420	3,669	0	2,754
指定管理料	25,400	0	0	0
その他	4,699	227	43	11
合計	31,907	4,157	43	3,439

項目	染色センター	木工加工施設	合計
賃金	1,811	0	4,584
光熱水費・燃料費	672	83	1,747
通信料・手数料	50	890	1,507
使用料・賃借料	13	10	1,556
消耗品費	1,181	105	2,075
備品購入費	0	176	1,468
賄・医薬材料費	85	0	96
修繕・維持補修費	1,671	0	4,960
委託料	1,790	0	9,812
指定管理料	0	0	48,291
その他	181	59	6,786
合計	7,454	1,323	82,882

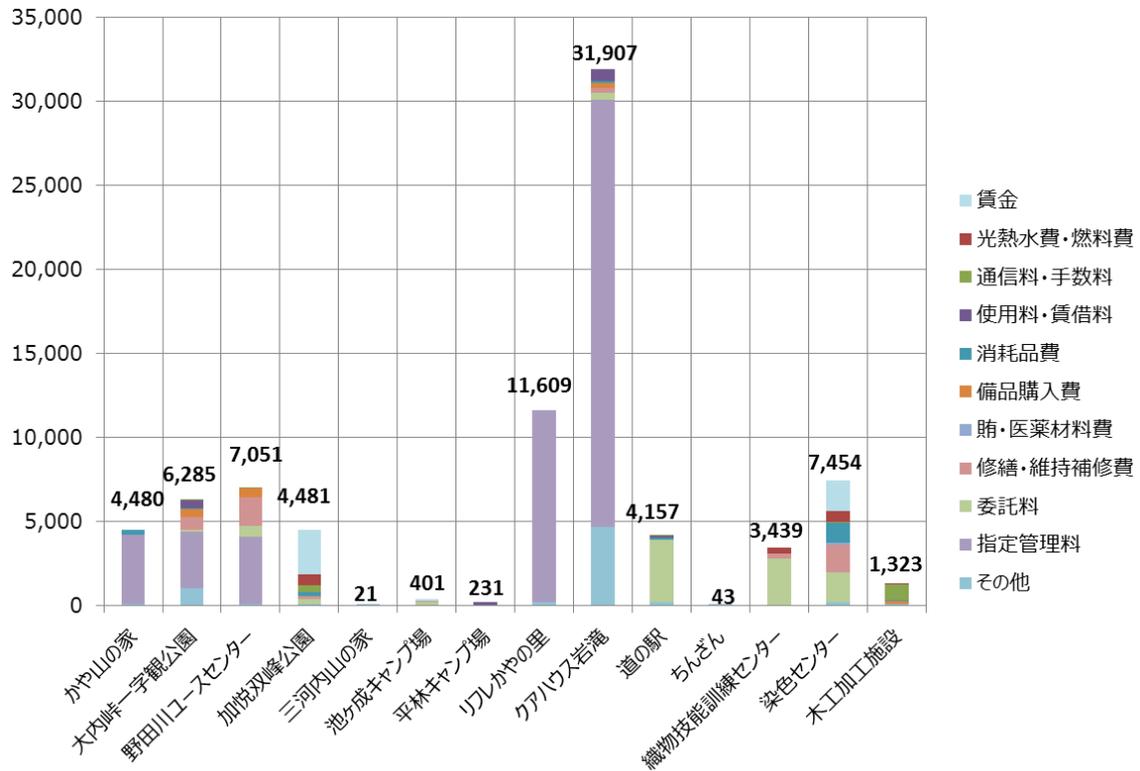
※金額は平成25年度の実績額です。

※野田川ユースセンターには森林公園のコストも含まれています。

【体験・レクリエーション施設管理・運営コスト内訳グラフ① (単位：千円)】



【体験・レクリエーション施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



各施設のコスト状況を比較すると、利用人数の多いウアハウス岩滝やリフレかやの里のコストが高くなっています。体験レクリエーション施設は指定管理を実施している施設が多く、収支は以下のとおりとなっています。

【体験・レクリエーション施設指定管理者の収入・収支一覧】

科目	かや山の家	大内峠 一字観公園	野田川 ユースセンター	リフレかやの里	クアハウス岩滝	道の駅	ちんざん
利用料収入	4,854	5,777	25,965	76,962	59,889	0	0
販売等収入	8,151	54		2,801	13,723	56,992	5,535
その他	66	630	219	33,315	8,525	3,111	101
指定管理料	4,184	3,379	5,024	11,407	25,400	0	0
収入合計	17,255	9,840	31,208	124,485	107,537	60,103	5,636
支出合計	17,273	9,554	31,976	133,923	104,204	65,209	6,451
差引	-18	286	-768	-9,438	3,333	-5,106	-815
指定管理者	かや山の家運営委員会	大内峠一字観公園有限責任事業組合	合同会社コミュニティ野田川	社会福祉法人よさのうみ福祉会	ドルフィン株式会社	タンゴフロンティア株式会社	有限会社明人夢村
収入中の指定管理料割合	24.2%	34.3%	16.1%	9.2%	23.6%	0.0%	0.0%

※ユースセンターは森林公園と一緒に指定管理していますので、森林公園のコストも含まれています。

② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/m²（解体費含む：スポーツ・レクリエーション施設）

○解体コスト・・・3万円/m²

○クアハウス岩滝・・・長寿命化計画策定中

基本設計業務を現在行っており、改修項目の洗い出しをしている。ただし、本長寿命化計画はただ単に元通りに改修するのではなく、今後の方向性を定め、施設のランニングコスト削減や収益性の向上などの仕組みを取り入れるべく、検討を重ねているところです。

⇒白書では建物のみの建替えコストを明示します。

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【体験・レクリエーション施設整備コスト等一覧】

(単位：千円)

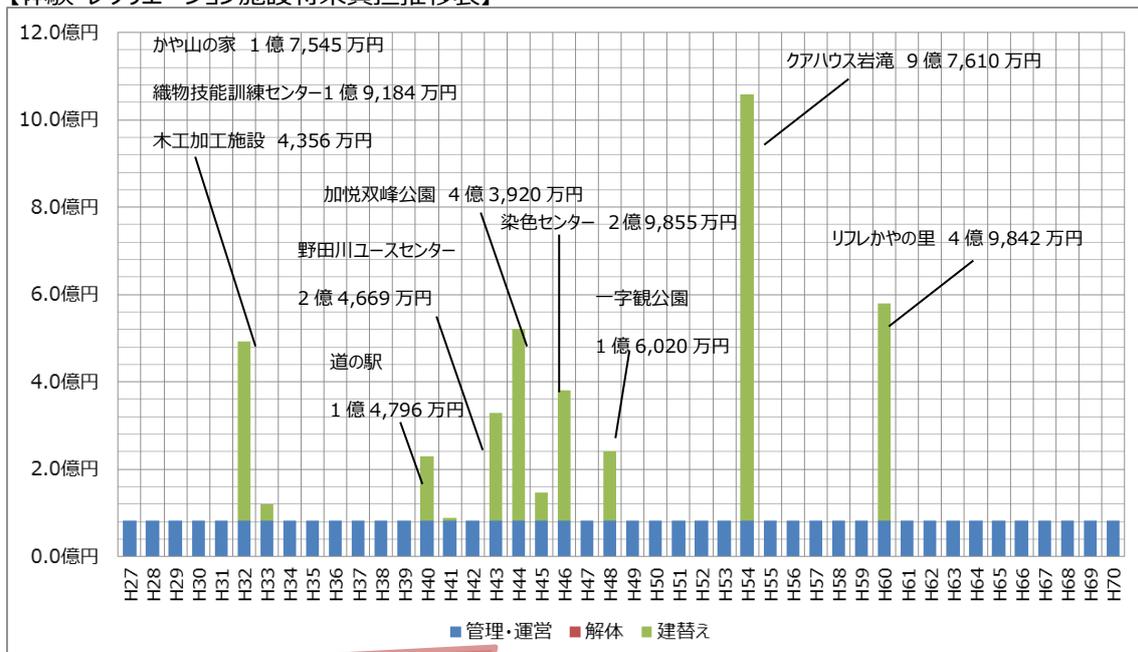
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建て替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
かや山の家	S53	35年	20,259	H32	175,464	参考	14,622
大内峠一字観公園	H13	35年	118,069	H48	160,200	参考	13,350
野田川ユースセンター	H3	40年	-	H43	246,694	参考	20,558
加悦双峰公園	S57	50年	41,649	H44	439,200	参考	36,600
三河内山の家	S61	35年	7,620	H33	37,944	参考	3,162
池ヶ成キャンプ場	S53	-	933	-	-	参考	-
平林キャンプ場	H4	-	9,991	-	-	参考	-
リフレかやの里	H10	50年	929,700	H60	498,420	参考	41,535
クアハウス岩滝	H4	50年	2,668,000	H54	976,104	参考	81,342
道の駅	H5	35年	154,706	H40	147,960	参考	12,330
道の駅屋外トイレ	H6	35年	-	H41	5,400	参考	450
ちんざん	H10	35年	33,609	H45	64,728	参考	5,394
織物技能訓練センター	S36	40年	14,500	H32	191,844	参考	15,987
染色センター	S57	35年	67,634	H46	298,548	参考	24,879
木工加工施設	S60	35年	7,380	H32	43,560	参考	3,630
合計					3,286,066	合計	273,839

※キャンプ場は作り直しません。

※染色センターは平成26年度に大規模改修を施しましたので20年後に建替え想定です。

管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コスト推移は以下のとおりです。

【体験・レクリエーション施設将来負担推移表】



コスト総額約 68.9 億円（整備 32.9 億円、解体 0 億円、管理・運営 36 億円）

体験・レクリエーション施設は建物部分よりも設備の整備コストが多大になると考えられます。例えばクアハウス岩滝は当初で 27 億円程度のコストがかかっていますが、今回の試算では 9.8 億円程度に止まるなど、乖離が生じていると考えます。全ての施設を建替えるとなると 32.9 億円もの費用がかかることになり、実際に必要なかどうか検討が必要になります。

【体験・レクリエーション施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1. 現状と課題

●利用状況

自然を体験する施設については、大内峠一字観公園の利用が多いことがわかります。これは 12 月～3 月の間が閉鎖になっていることを考慮すれば、大変人気のある施設であると言えます。一方で、双峰公園は利用者数が低調であり、閉鎖されている設備も多く、開園当時の賑わいが今はない状況です。

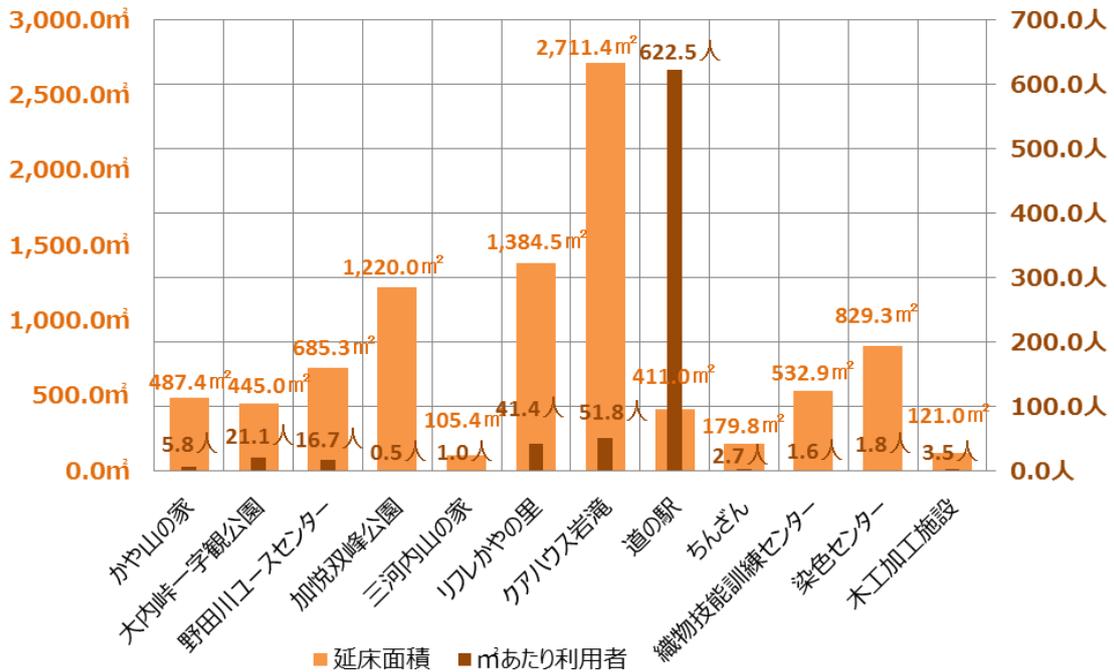
また、指定管理施設については、直営時代に中々手をかけることができなかった部分である営業部分に、指定管理者の努力が反映されており、指定管理者制度の導入が功を奏しているといえます。

食と健康を体験する施設については、利用人数はリフレカやの里、クアハウス岩滝ともに多くの方にご利用いただいています。自然を体験する施設同様、指定管理者の営業努力が結果に反映されており、指定管理者制度の導入が功を奏しているといえます。

産業・ものづくりを体験する施設については、利用者数は横ばいであり、一定の利用があると言えます。ただし、道の駅の利用数をどう評価するかは検討が必要です。

参考に建物規模である延床面積と利用者数の関係を以下のグラフで示してみました。延床面積と 1 m²あたりの利用者数との関係です。

【体験・レクリエーション施設延床面積 1 m²あたりの利用者数】



道の駅は運営形態が販売中心で一人当たりの滞在時間もそれほど長くないので利用者が多く見えます。リフレかやの里、クアハウスは大内峠一字観公園も利用者が多い現状を反映しています。

●建物状況

施設はそれぞれ昭和 53 年～平成 13 年の間に整備されたもので、耐用年数を超えているものが 14 施設中 2 施設あります。クアハウス岩滝は長寿命化計画の策定に着手するなど、その他の施設も含めて建替えずに長く利用できるような検討が必要になります。

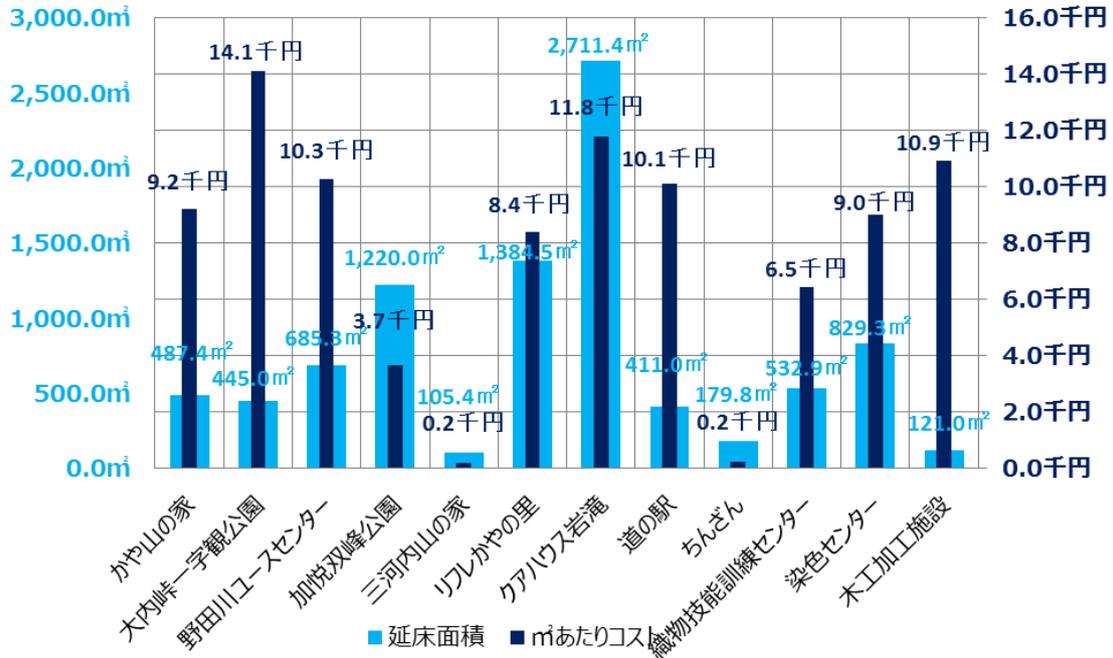
●防災状況

避難所指定になっている施設については、水害時が 3 ヶ所、地震時が 2 ヶ所あります。災害警戒区域の指定については、浸水想定区域に位置する施設が 2 ヶ所、土砂災害（特別）警戒区域に位置する施設が 5 ヶ所あります。特に生産物特産加工施設と平林キャンプ場は、土石流の特別警戒区域に位置しています。

●コスト状況

管理・運営コストについては、7 つの施設が指定管理をしており、5 つの施設で指定管理料を支払っています。やはりクアハウス岩滝の管理運営コストが高くなっています。施設の規模とコストの関係を見てみると、延床面積と 1 m²あたりのコストの関係を以下のグラフに示してみました。

【体験・レクリエーション施設延床面積 1㎡あたりのコスト（単位：千円）】



大内峠一字観公園は延床面積で算出していますので、あまり妥当な数字ではないと考え、度外視しますと、特に木工加工施設が建物規模に対して管理運営コストがかかっているように見えます。指定管理施設では、かや山の家や野田川ユースセンター、道の駅などが建物規模に対してコストがかかっている印象です。

2.現状と今後の考察

本白書では体験・レクリエーション施設について用途目的で分類しました。これは、同様の目的のものを多数有する必要があるのか、稼働率や利用者などを比較することで与謝野町の施設にどのようなことを求められているのか、を検討するために有効だと考えたからです。

●自然を体験する施設

与謝野町の特徴とも言える豊かな自然を楽しめるというだけで、施設の価値はかなり高いと言えます。その代表的なものが大内峠一字観公園です。ここは比較的宿泊施設も新しく、なにより天橋立を横一文字に臨む眺望が人気の施設です。

一方、自然を体験することが目的であるにも関わらず、最初の設備の規模が比較的大きく、一時の賑わいがなくなり設備閉鎖されている加悦双峰公園を考えると、キャンプ場としての施設にはそこまでのものは要求されていないことが考えられます。

●食と健康を体験する施設

このリフレかやの里とクアハウス岩滝の二つの施設に関しては、施設が充実していることから、今後もある程度の利用者があると考えられます。

リフレカやの里に関しては、近辺に文化施設もあるので、他の施設との関連サービス、イベントの開催など地域活性化の拠点施設としてその役割が多いに期待されます。

クアハウス岩滝に関しては、当初の利用料設定が曖昧な部分があり、今後修繕などコストをかけることで、利用料が高くなったときに利用者が変化に対応できるのか、また利益を追求できる程の集客力があるかが課題となります。

●産業、ものづくりを体験する施設

この分類の施設は用途が多様なので、今後活用にあたっては個々での検討が必要になります。

道の駅という施設は各地にあり、地元の特産品を売っていることが知られているので外部から来た人にとっては立ち寄りやすいですが、交通事情との兼ね合いが悪いのは施設の特徴から考えると重要な課題です。

織物技能訓練センター、染色センターは、施設自体は古いですが、与謝野町の特色でもある繊維に関連した施設ということで、連携や統合といったことが考えられます。

重要伝統建築物群保存地区である「ちりめん街道」合わせて織物の魅力見学コースを提供するなど、観光面での活用も考えられます。

●まとめ

全体的に各施設の用途に特色があり、一様に比較検討することはあまり妥当ではないという印象です。結果的には施設単体についてさらなる検討が必要であると考えます。

加えて、特色ある利用用途は建物本体よりも、設備・機械のほうが重要になってきます。今回の白書ではあくまで建物部分しか言及していませんので、建物に加えて設備・機械の今後の稼働についても調査する必要があります。

いずれにしろ、体験・レクリエーション施設にカテゴリーされた施設は、例えば学校施設等とは違い、行政が提供しなければならないサービスとは言い切れない部分があります。直営施設の管理運営形態を見直すことは当然として、現在指定管理施設についても、指定管理料の見直し、民営化への移行など、公共施設マネジメントを進める上で検討しなければならないと考えます。

その6 参考事項

●クアハウス岩滝長寿命化計画

クアハウス岩滝は建築から 20 年以上経過し、その間一部の修繕・更新等を行ってきましたが、施設全体（建築物・設備・温泉関連・外構等）については、経年劣化や機能低下が顕著となっています。また社会情勢の変化から近年ますます健康づくりに対する関心も高まり、健康増進施設として機能向上が求められています。このことから、平成 26 年 10 月から長寿命化に向けた改修工事の基本設計業務を委託し、打ち合わせを重ねているところです。

本改修工事は単に施設を元に戻すのではなく、施設の今後の方向性を定め、ランニングコストの削減や収益性の向上などの仕組みを取り入れる必要があります。

進捗状況としては、改修工事部分の洗い出しをし、経営コンサルティング会社との共同調査によるリニューアル提案、コスト削減のための提案などが出揃い、検討をしているところです。

●道の駅エリア活性化計画（仮称）

「道の駅シルクのまち かや」は、平成 7 年 4 月に府内 3 番目の道の駅としてオープン以来、丹後地域への玄関口としてたくさんの人々を出迎えてきました。昨今、開業 20 年を迎えましたが、道路状況の変化等により売上・入込客ともに降下の一途を辿っています。

そんな中「道の駅シルクのまち かや」は、地域活性化の拠点として意欲的な取り組みが期待されるとして、国土交通省近畿地方整備局から、重点「道の駅」候補として選定をいただきました。（平成 27 年 1 月選定）

この選定を契機に、地域活性化の拠点とするため、道の駅エリア再構築検討会を立上げ、地域住民や農業生産法人、周辺施設が参画し、道の駅を拠点に、周辺エリア一帯を「滞在交流エリア」として再構築することを目指します。

平成 27 年 9 月までに検討会を重ね、実現性のある次の展開を見据えた「道の駅エリア活性化計画（仮称）」を策定し、再構築に向けた取り組みを進めます。